

数えきれない主の恵み

高江洲 英子

Infinite grace of God

Eiko Takaesu

青い海にならんで浮かぶ美しい伊平屋島と伊是名島。いつかたずねてみたいと主人と話していた島です。

そんな矢先、昨年6月、むし歯予防デーにあたり伊平屋島の教育委員の方から虫歯予防についての講演の依頼があり、主人はこころよく承諾し私たちは6月9日伊平屋島に向かいました。運天港から1時間20分の船旅で暑い日でした。

私的なことですが、主人は35年前ハーヴァード大学のフォーサイスデンタルセンターで研究員としてボストンに3年間滞在し、家族5人もアメリカの生活をたのしみました。(末っ子の次男はボストン生まれです)。また、東京歯科大学の名誉教授でフッ素の研究者として知られております。WHOの会員でもありました。

余計なことを云いましたが、伊平屋の学校の先生方が主人の来訪をよろこんで下さり、小学校2校と中学校2校の1日3回の講演をこなしました。(高校は本島に来るそうです)

どの学校でも生徒先生方父兄の方々が体育館にすわって主人の講演に耳をかたむけ、スライドを見たりブラッシングの指導も熱心にうけて

いました。

夜は教育委員会のお宅にお招きをうけ、おいしい沖縄料理と泡盛をごちそうになりました。

翌朝、フェリー便で運天港にもどり主人は自分で運転して2時間弱で帰宅しました。主人はとてつつかれているように見えたので、早めに夕食をとりやすんだのですが、次の日の朝早く主人の異変にきづきました。いつもの朝のあいさつに返事もなく、お茶を入れてものもうとせず、家の中を行ったり来たりまたベッドに横になったり、しばらくするとリビングに来てソファーにすわったり、またベッドにいつて横になったり…「疲れているの？」と私がきいても言葉ではなく左手を横に振って「そうではない」という意思表示をしていました。そして又ちょっとふらついたのです。倒れることはなかったのですが、様子が変わるので私は救急車を呼びました。

それが私たちの人生に大きな衝撃を受けたはまりでした。

ICUに運ばれ、脳CT、脳MRIの写真を取り脳梗塞と診断されました。右半身は麻痺し言語も奪われました。薄黒く腫れ上がった右手を三角布でつり(麻痺の腕の重さは体重の三分の一かかるので脱臼しやすいので三角布を忘れないようにとの注意をうける)、車椅子での移動でリハビリ室、言語訓練室へ通いました。入院してすぐ主治医からはっきり「もとの体にもどるのは無理ですよ」と云われ、すごいショックを受けました。脳梗塞

【著者連絡先】

〒904-2225 沖縄県うるま市喜屋武181-4-A

高江洲英子

TEL&FAX : 098-974-6701

E-mail : eiko.fdrd100621@ezweb.ne.jp

がこんなにおそろしい病気だと知りませんでした。とても軽い人もいるそうですが主人は思ったより重症だったのです。

リハビリ病院に入院できるのは120日～150日までと規定があるそうで、10月には退院することはきまっていました。主人が入院している4ヵ月、1日も休まず病院に通いました。朝、7時半に家を出て夕方7時半にかえってくる生活がつづきました。夕暮れどき一人で運転して帰る道すがら悲しみと不安にうちのめされて何度涙した事でしょう。

そんなとき暗記している好きな聖句が口をついて出て来ます。

「あなたがあつた試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか試練と同時にそれに耐えられるように逃れる道を備えて下さるのである」(コリント人への第一の手紙10章13節)

この聖句を口にすると私は勇気が与えられ元気に帰ってこられるのです。でも信仰がうすい私は、またくりかえし不安や心配ごとで胸がいっぱいになり涙ぐんでしまうこともあります。

東京に住んでいる3人の子供たちがこの一年、仕事の合間をぬってそれぞれ8回ずつ、ここ沖縄に来てくれましたが、帰ってしまうと子どもたちや子どもたちの家族に無性にあいたくなり涙がでます。

話が好きな主人と会話ができず寂しいことです

が、話すことはできないものの不思議に歌はうたえるので脳の神経細胞はどういうふうになっているのか不思議でなりません。

こんなこともありました。昨年退院した翌月の11月のある日曜日の朝、主人が普通に話すように「教会へいきましよう」とはっきり云ったのです。私はびっくりしましたが、そのあとこんなに長い言葉はまだ云ったことはありません。でも、その日から休まず二人で聖日礼拝に出席しています。今でも主人は杖をつきながらですが一人で歩けるようになり、左手でフォークを使って食事もできますし、左手で花壇に水をあげることもできます。もし寝たきりだったらできないことです。あと一年もたてば、だんだんお話ができるようになり、右手がもっと使えるようになると信じて毎日リハビリをつづけています。

くじけそうになるときは讃美歌の「数えよ、主の恵み」を口ずさみたくさん恵みをいただいていることに感謝の祈りを捧げます。

数えきれない神の恵み……すぐそばにいて力強く支えてくださっている主人の弟(精神科医で芸術療法で何度も賞をいただいている)、介護施設に働く姉と妹がいます。

そして主イエス キリストによって結ばれている大勢の兄妹姉妹の祈りに支えられています。

神の恵みと愛に感謝の祈りを忘れずにこれからも主人の手となり足となって介護生活をつづけていけますように願っています。

日本キリスト教団
平良川教会